

三重ウコギ栽培技術開発試験研究

平成16年度～17年度（財団法人科学技術交流財団委託）

富田ひろし

薬用植物として注目されているエゾウコギ等について、自然分布地域と気象条件の大きく異なる地域における活着および生育状況を調査し、本県特産の薬草木としての栽培の可能性を検討する。

なお、本研究は地域新生コンソーシアム研究開発事業（修治加工技術を取り入れた廃棄および有用資源活用型機能性食品の開発）の一環として、（財）科学技術交流財団との再委託契約に基づいて実施したものである。

1. エゾウコギ現地植栽分の定期調査

予備的に2003年5月に、林業研究部構内及び実習林内に植栽したエゾウコギ約100本の活着状況と生育状況を調査し、成長特性を明らかにした。これによれば、夏期の高温障害を受けて地上部が枯死し、翌春、再び萌芽成長するが、経年的にマイナス成長を繰り返し、やがて完全枯死していくと推定された。しかし、試験区の中にはマイナス成長の少ないプロットがあり、一定の条件下でプラス成長を確保できる可能性があると思われた。

2. エゾウコギ栽培現地調査および関係文献の収集と分析

関係文献の収集と分析を行なうとともに、北海道の栽培現地を見学し、栽培技術開発に関する多くの知見を得た。

生態・形態に関して

エゾウコギはウコギ科の落葉低木であり、我が国では北海道北東部にのみ自生する。上木はシラカバ、シナノキ～トドマツ、林床はクマイザサ～フッキソウなど、植生の特異性はない。成立本数は平方メートル当たり1～21本で、平均樹高は10から最大160～230cmに分布し逐次更新している。地上部の生産量（生重）生育幹数に関係なく平方メートル当たり0.7～0.9kg、地下部は1.7kg前後である。

増殖・栽培に関して

増殖法には実生、挿し木、株分けがあり、実生が確実である。実生では播種から発芽まで2年を要し、発芽率は20%前後。苗高は1年生で10cm、1回床替え2年生で30cm、2回床替え3年生で50cm程度である。樹高は7年生以降、直径成長は5、6年生で急速に衰える傾向があり、5～6年で収穫されている。

根系に関して

水平根はよく発達し、垂直根は細くて少ない。根の広がりには2.2～9.6mで樹高の最大4.6倍に達する。水平根は1もしくは2方向に偏り、傾斜地では傾斜上部に多い傾向がある。萌芽幹は最大7本が地下茎で連結している。



エゾウコギ栽培地（北海道本別町）



エゾウコギの活着・生育調査（林業研究部）

3. 栽培試験区の設定

上記1と2の結果を受けて、2005年3月にエゾウコギ、ヒメウコギ、ヤマウコギ等の供試材料を収集し、林業研究部灌水施設内に用土別、遮光材質別、遮光率別の試験区を設定し、定期調査を開始した。